

山陰海岸のフロラを二分する境界線

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 生駒, 義博, Ikoma, Yoshihiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065742

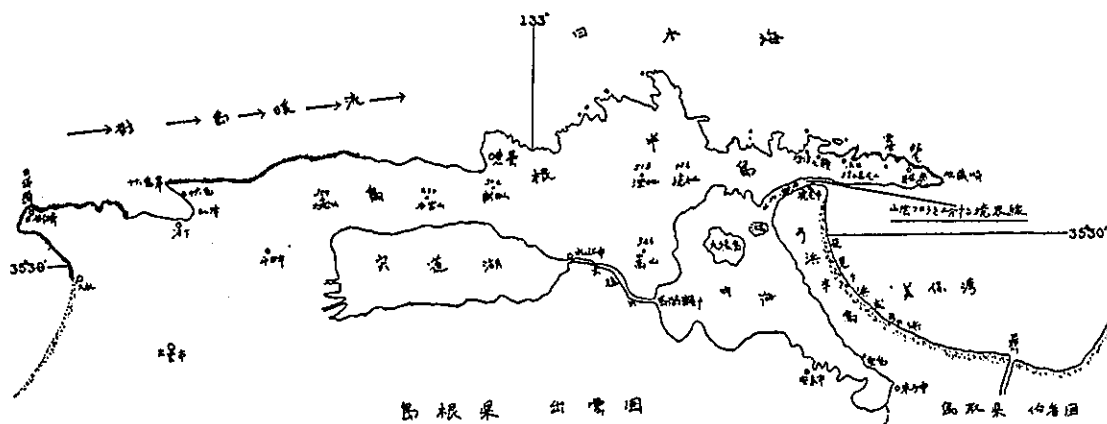
This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



生駒義博* 山陰海岸のフロラを二分する境界線

Yoshihiro Ikoma* : The Line of Demarcation which Divides the
Flora of Sanin coast in Two Regions.**

自然環境の概要 今こゝに論じようとするのは境港の水道である。日本海の西南部にあたり「中江瀬戸」が本名である。山陰道のほぼ中間で島根県と鳥取県との境にあたる。中江瀬戸は巾、境港市朝日町から対岸島根半島長島間が最短で 230m, 水深 7m, 流速毎秒 40~45cm, 洪水のときは 1m 位の流れのある狭い海峡で港となつている。東経 133°15', 北緯 35°33' の辺にあたる。南は中海で面積約 1,200m² あるが浅い半かん水海で最深部でも崎津の沖合で 7.3m を示す位である。東は米子市から中海と日本海との間に島根半島に向つて北西に一大砂しが発達し長さ 17km, 巾 2 km 半~3 km の低平な弓浜半島がその名の如く弓形に突出してその先端が境港であるが, 地質時代からあつたものではなく, 東方の日野



山陰海岸のフロラを二分する境界線図

川その他多くの川から流出した砂が堆積し北西の卓越風と西方の大きな島根半島で対島暖流の一大湾流がこの弓浜半島を造つたもので, 島根半島と米子辺までは離れていたものであるため, ここには固有の植物はなく近年に分布したもので, 特に樹木では中海側の米子近くの粟島 (38m) があるのみで今は島ではなく陸つゞきとなつた。粟島と島根半島の植物を比較することはできるが, 粟島はあまりにも小さすぎるので, 境港から東南 17 km の米子のよく保存された城山の原始林, 或は東方の海岸植物と比較対照することとなる。

北方は日本海で真北に島根半島から 60km (島前)~80km (島後) へだてた沖合に隠岐島があるが, 島根半島の植物分布については北東に向つて流れる対島暖流のために特に海岸植物は大きく左右される。表面水温最高は毎年 9 月初旬に現われ 24°~28° 内外を示し, 最低は 2 月中旬に現われ 8°~13° 内外を示し, 表面潮流は北東流で冬期 1/2 ノット~1 ノット

* 鳥取大学農学部

**1956年 (昭和31年) 5月13日, 山口大学の日本植物学会中国四国支部大会で
“境水道は植物分布上一線を劃す” と題し大要を講演し批判を求めた。

内外，春夏秋は1½ノットから2ノットで強いが，時に1½ノット～2ノットの強い南西流もある。

島根半島は南は宍道湖，松江，大社等の低平な平野，湖沼となる。宍道湖は大橋川，馬潟瀬戸で中海に通じ，更に中江瀬戸で日本海に吐出する。日ノ御碕から美保関近くの地蔵崎まで東西64km，大社，平田，松江，境港の北に南北に狭く東西に長く広がる。

島根半島のほぼ中央は200～300mの山地からなり，東方は美保湾をいだけ，島根半島は中生層大部分を占め，北方日本海岸は断崖絶壁のところ多くところどころに小さな砂浜がある。島根半島の中央の恵曇及びその四近最近10年間の年平均気温と総降水量を示すと

		年平均気温	年平均総降水量
恵	曇	14°7'	1,351.4ミリ
松	江	14°0'	1,973.6
境	港	14°3'	1,946.1
米	子	13°8'	1,824.0
大	山寺	10°4'	3,325.2
鳥	取	13°9'	2,026.2

で島根半島の中央恵曇で気温14°7'で総降水量1,351.4ミリで山陰特有の寒冷湿じゅん地帯としては暖かく，雨量も少ないので，冬季の降雪は極めて少く，ほとんど雪を見ない位で暖かく，この気候は西方の島根県下に通ずる。

島根県下の海岸植物相 島根半島は特に海岸は従来交通不便のため固有の植物景観がよく保存されていたが，大平洋戦争のため森林の伐採と開こんが行きわたつて，原始林の姿を残すところが極めて少なくなつたが，それでも美保関近くの外洋に面する軽尾，雲津辺には残っている。七類，惣津あたりには僅かに残る十六島など交通不便の海岸ほど興味がある。

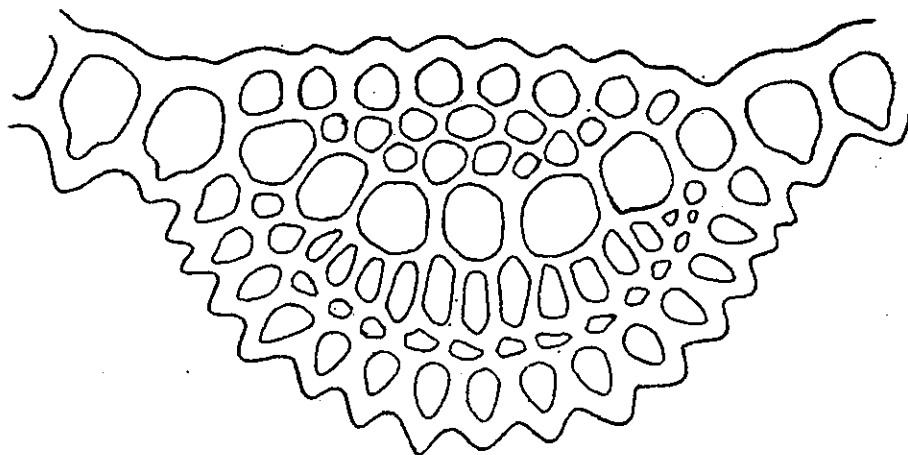
この様な環境であるため，降雨雪の多い日本海岸でありながら比較的高温で雨雪少く，海岸植物に強く影響し，山地にはカゴノキ *Isoetes lancifolia* Blume, ビワ *Eriobotrya japonica* Lindley, シュロ *Trachycarpus fortunei* H. Wendland 等の常緑樹密林をなし，ハスノハカズラ *Stephania japonica* Miers, アリドウシ *Dammacanthus indicus* Gaertner fil., ヘラシダ *Diplazium lanceum* Presl 等が下草となる。

ハマビワ *Fiwa japonica* J. F. Gmelin は到るところに大きなむれをなし，生育がよく繁茂するが，中江瀬戸以東に分布しない。海岸乾燥岩地にはハマヒサカキ *Eurya emarginata* Makino が多く，ハマビワと同様北限となつている又アツバスミレ *Viola mandshurica* W. Becker var. *triangularis* Hiyama も特に多い。米子市城山にはカゴノキ生育し，又南方の日野郡法勝寺附近から因幡地方にも極めて稀に点々と自生するが，島根半島の比でない。又ハマビワ，ハマヒサカキは伯耆，因幡，但馬等の山陰地方の海岸には自生しない。福井県生物目録（昭和8年）にも見えない位であるから，分布しても小群落であろう。島根半島のむれの大きいのは特色である。そしてこの植物景観は出雲，石見，長門と次第に南方系に連続する。

境港水道即ち中江瀬戸は、山陰地方海岸植物区系を二小分する境界線となることを認めた。後世多くの植物地理学者の認めるところとなれば生駒線と呼ばれんことを望む。

本研究に度々この地方に研究のため旅行の機会を与えられた鳥取県立科学博物館長岸本喜代治，鳥取県科学教育研究会長（鳥取西高校長）花房寿美太，小椋正人，岸岡務，森田政雄の諸氏に謝意を表す。

○蘚類植物の中肋に就いて（河合功） I. Kawai : On the Midrib of Moss Plant.



キボウシゴケの中肋

蘚類植物は一般に陸上植物として取扱われているが、その体制を詳しく観察すると、陸上植物としての体制を十分に持っているとは思われない。云わば中間的な存在であると云つてよからう。而し陸上植物として取扱われている以

上、陸上植物としての特徴を或程度持つている訳である。その特徴の1つとして考えられるものに通導組織がある。

蘚類植物の通導組織は甚だ発達が悪いが、茎、葉の各器官に或程度見られる。蘚類の場合には、高等植物（陸上植物）の中心柱に相当する組織を中心束と呼び、高等植物のそれと区別されている。この中心束に連なる葉の通導組織として中肋が存在している。

蘚類の葉の横断面を観察すると、そのほぼ中央部に位する中肋の構造は種類に依つて異なり、全然認められないもの、発達の悪いもの、比較的発達しているもの等がある。この中肋の分化の程度が、通導組織全体の発達と如何なる相関関係を有しているか、又体構造の発達程度との間はどうかと云う様な問題は興味深い事柄であり、更に又通導組織の発達と生態的な関係等も合せて考えるとき、更にその度を深めるであろう。通導組織特に此処では中肋の系統分類学的意義の研究が重要であろうと云う事のみを述べ、今後更に多くの蘚類を観察し比較研究して行き度いと思う。